

○副議長（曾根嘉明議員） 次に、森下文子さん。

〔7番 森下文子さん登壇〕

○7番（森下文子さん） 私は、中山間地に住むNPOの職員として、グリーンツーリズムの開発、企画、そして農林家民宿の立ち上げ、また、メニューづくりに関わってまいりました。その経験から、島田市の観光政策についてお伺いしたいと思います。

島田市には、富士山静岡空港、新東名島田金谷インターチェンジがあり、空と陸の交通の利便性がとてもすぐれているところだと思います。また、現在はトーマスで話題になっている大井川鐵道や、ギネスブックにも登録されている木造の蓬莱橋など、自然豊かな中山間地域等、このほかにも全国的に誇れる観光資源がたくさんあります。

しかし、残念ながらその素材が十分生かされているか疑問です。

そこで、私の大好きな川根という中山間地域で活動するものとして、常に感じていることがあります。それは、今、静岡県が力を入れている着地型観光、農林家民宿等、今後、民泊を増やし、それを活用した体験型教育旅行的なツアーの企画なども十分に考えられるのではないのでしょうか。

また、昨年製作した「いいねかわね」を英訳し、海外へ紹介したいとの問い合わせや、報道機関からの問い合わせも多々ございます。旧島田、旧金谷、旧川根といった地域、島田市全体が1つのテーマパークとして連携して、積極的に「観光島田市」をアピールしていけばいいのではないかと思います。以下についてお伺いいたします。

(1) 島田市全体を含め、着地型観光の進め方や体験型教育旅行等も含め、市の考えをお伺いいたします。

(2) 先進地においても、農林家民宿と女性のかかわりは大変大きいものがあります。昨年開業いたしました川根の2件の農林家民宿は大変御好評を得ており、女性が生き生きと活躍しております。

女性の活動の場としても、また、交流人口増加という意味でも、今後の民宿を含め、民泊活動の進め方を伺います。

(3) 観光地域の魅力発信等、マスメディアの活用は不可欠と考えます。市としてどのような取り組みか、また、考え方を伺いいたします。

(4) 平成25年度に作製しました先ほどの川根地域情報誌「いいねかわね」は、大変御好評を得ていますが、残念ながら、今、残りが本当に少なくなっていました。また、これを活用する意味で、国内や、例えばその問い合わせがある海外などに英訳して、広範囲の宣伝をするお考えがあるかお伺いいたします。

(5) 観光事業のみならず、地域の活性化に関しては島田市まちづくり交付金は大きな役割を果たしていると思います。現在の利用状況と、今後の方向性についてお伺いいたします。

以上で、私の壇上での質問を終わらせていただきます。

〔7番 森下文子さん発言席へ移動〕

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 森下文子さんの、1の(1)の御質問からお答えさせていただきます。

利用者のニーズの多様化により、着地型観光への関心が高まっております。そうした動向に合わせ、島田市が持つ多くの観光資源を組み合わせることはもちろん、体験型観光の掘り出しや創出をさらに行う必要があると考えております。そのためには、地域の方や関係団体との連携を図り、島田市らしいメニューをつくり上げていくことが重要であると考えております。

教育旅行については、富士山静岡空港就航先を中心に、国内外からの誘致を積極的に行ってまいりたいと考えております。現在、島田市、藤枝市、焼津市、川根本町で組織する3市1町広域観光連携協議会では、台湾を中心に教育旅行の誘致に取

り組んでおります。これに体験型観光や農林家民宿、民泊をうまく取り込むことができれば、教育旅行の受け入れに大きな役割を果たすものと大いに期待をいたしております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えいたします。

農林家民宿は緑豊かな農山村地域において、その自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型余暇活動を進めるため、農業者、または林業者が農林業体験などに合わせて人を宿泊させる内容となっております。現在、島田市には2件の農林家民宿が開業しておりますが、開業者の条件として、農業者、または林業者であることとされていることから、開業する意思のある方があれば、市として前向きに対応していきたいと考えております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えいたします。

大井川鐵道が運行するトーマスの反響の大きさを見るにつけ、改めてマスメディアの情報発信力のすごさを実感しております。現在、市役所内に新聞やテレビなど、報道各社で構成する島田記者クラブがあり、定例記者懇談会等で積極的に情報提供を行っております。これからも観光情報やイベント情報など、地域情報をいち早く把握し、有効なタイミングで情報提供することでマスメディアを活用した情報発信を心がけてまいりたいと考えております。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。

川根地域情報誌「いいねかわね」は、2万5,000部を作成し、高速道路のサービスエリアや市内公共施設等で配布しております。また、市のホームページに掲載して情報発信しているところであります。この作成に当たっては、多くの川根地域の皆さんに参画していただきました。川根地域の皆さんがつけられた情報誌と言えると思っております。この情報誌は大変好評であります。既

に残部はほとんどない状況でございます。情報誌は掲載した情報の鮮度が重要と考えておりますことから、市といたしましては、「いいねかわね」を英訳し、発行するということは、今の時点では考えておりません。

次に、1の(5)の御質問についてお答えをいたします。

今年度は、これまでに5件70万円の交付決定をしております。また、今後の方向性につきましては、まちづくり支援事業交付金が協働の担い手となるべき団体を育成、支援し、市民団体の自発的な公益活動の促進を図ることが目的であることに加え、さらに適正で透明化を高める事業とするために、交付金事業として応募された事業内容を有識者や市民の皆様にご審査していただく方法も、あわせて検討してまいりたいと考えております。

以上、御答弁を申し上げます。なお、再質問につきましては担当部長から答えさせる場合がありますので、よろしくお願いたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 森下さん。

○7番（森下文子さん） ただいま、市長様の前向きな御提言、御答弁をいただきまして、本当にありがとうございます。いろいろな面で、私どもも試行錯誤でいろんなツアーをやっておりますけれど、本当に川根のリピーターが現在とても増えている状態です。そして、この「いいねかわね」ものすごく引き合いがありまして、もっと欲しいという方がいらっしゃるのですけれど、ほとんど残がないのがとても残念ですので、できれば、増刷をお願いできればうれしかないと、皆さんにお渡しできるかなと思ひ、提案しました。

ところで、皆さんは、島田市のゆるキャラ“チャリムくん”を御存じですか。チャリムくんの名前は、いろんなところへ連れていってもいつも聞かれるんですけど、『夢のあるお茶の里』ということで“チャリム”（茶里夢）とついたので、

先日、霊峰の森富士へ行きました時に聞かれま

して、夢のあるお茶の里、つまり島田茶、金谷茶、川根茶のある島田市に表した名前を付けましたということをお願いしたら、すごく皆さん感心してくださりまして、島田茶、金谷茶、川根茶のアピールもできたのではないかなと思っております。

そのチャリム君の、昨年度の公式出演の回数は、市内外を含めて8回です。本年度は、8月10日に名古屋、9月には岐阜県関市の10周年記念に出てくれと言われたんですけど、諸事情があって、今回だけはお断りさせていただきました。

次に、昨年8月に立ち上げました2件の農家民宿ですが、私どもも、これほどお客様が見えてくださるとは思っておりませんでした。まちづくり川根の私どもが市の方に御支援いただいて立ち上げたものですから、その支援は十分させていただいております。参考に、昨年8月から昨日現在まで、「みそら」の宿泊客61人、ランチメニュー、体験メニューが17人、「いつか」が、宿泊客60人、ランチメニューが40人、そして私どもが主催しましたランチツアーに30名、15名の募集に30名の多くの方が訪れてくださいました。本当に皆さん元気で頑張っております。

次に、まちづくり交付金ですが、今年度は現在までに5件交付決定されたということですか、私どもが考えるととても使いにくい制度だと、いろいろな方々からもそう伺っております。先ほどなぜ申し上げたかという、まちづくり交付金というのは、交付対象は最初だけだと思うんですよ。でも、農家民宿なんかもそうなんですけど、立ち上げるだけでは、まずお客様は見えてくれません。それから、チャリムくんの出演なんか、ただチャリムくんだけと言っているだけでは島田市のアピールにはなりません。そこで私どもは、自分たちのNPOでできる限り、出演回数を増やす取り組みしております。

そんな中で、今後これらに関わる支援や開発等

にも使える、使いやすい交付金があれば、私どものような、頑張っている島田市民が、元気に、活発に島田市をアピールできるのではないかと考え、新たな、使いやすい、無駄に使うのではないんですけど、こういう交付金の御提案をさせていただきたいと思います。

○副議長（曾根嘉明議員） 牛尾企画部長。

○企画部長（牛尾伸吾） 御質問いただきまして、ありがとうございます。まず、「いいねかわね」の増刷のお話ですけれども、本当に評判がいい冊子でして、市役所にももう残りがありません。御提案の趣旨は承りましたが、市長答弁の中にもありましたように鮮度が重要だということで、同じ形のもを増刷していくというよりは、形を変えて、あるいはまた違った手法で情報発信のことも考えられますので、議会とも相談をさせていただいて、検討をしていく一つの課題かと思っております。

それから、農家民宿に関連して、まちづくり交付金を使いにくいという話をいただきました。この農家民宿にかかわらず、1回だけだよというところが、そのお話につながっていると思います。これは確かに課題なのですが、皆さん、本当に善意で一生懸命、地元の地域のために取り組んでいただいていることなので、少しでもそのお気持ちにお応えしたいのですが、業務の話で申しわけないんですけども、この秋に事業仕分けというのを私どもが担当しているんですが、限られた財源の中で、どんなことに使っていくかということの中で、いろんな方の視点が、市民の視点がございませう。そうした中で、合意形成が図られればそうしたことも可能かと思われまうけれども、現在は、市民が主導で主体的に取り組んでいただくことの立ち上げのきっかけということで、1回限りということで、制度的にはできております。これも課題とさせていただきたいと思います。

○副議長（曾根嘉明議員） 森下さん。

○7番（森下文子さん） ありがとうございます。

「いいねかわね」も、またほかの形で「いいねしまだ」というような市全体で何かあればいいなと思います。まちづくり交付金は、農家民宿に限ったことではないんですけど、私どもが運営するチャリムくん、島田市をPRする、そういう活動なんかも使いたいと思いますし、いろんな面で活用できる交付金があればと思いました。

私ども川根地区では、今2件の民宿を立ち上げさせていただきました。今後、民泊とか、その教育旅行的ツアーをするにおいて、私どもだけではなく、伊久美とか、金谷の大代なんかにもとてもすばらしい景観のところがありますので、ぜひ立ち上げていただきたいと思います。お調べになってくださればわかりますが、立ち上げただけでは、ほとんど浸透されません。本当に私どもは、メディアを使ったり、いろんな方と仲よくさせていただいており、実は8月11日には、スタジオで生出演ということで、8時15分までにSBSへ来るようにと言われていまして、野守の池のお祭りの収録をさせていただきます。そういうメディアなんかも使う意味でも、1年間、本当に勉強させていただきましたので、これから、立ち上げる方を御支援できるかなと思うんですけど、立ち上げただけでは、お客様というのはなかなか全国に浸透されないというのが実感です。

私たちは、農家の方に立ち上げていただきたいとお願いしたものですから、それに対する支援は、NPOまちづくり川根の会、必死になって頑張っています。ですので、メディアウエルカム、テレビ局が来たら、どんな用事をさておいてもお願いしますと。県には、7月24日9時からの「みのもんたさん」の番組の後で、5分間ぐらい農林家民宿の宣伝をしていただきました。それも多分、皆さんとのつながりがあって、川根にそんなのがあるなということが発信できているからだと思うんですよ。立ち上げることってそんなに難しいこ

とではないと思いますが、宣伝をいかにするかという視点が必要で、私たちは1年間、難しかったです。でも、自分たちのやった実績を、そういう機会があれば御指導させていただいて、条件さえあれば立ち上げることは簡単ですけど、重要なことは支援することであることを、皆さんの前で、立ち上げる方たちの前で訴えていきたいなと思っております。

○副議長（曾根嘉明議員） これについて、答弁ありますか。

染谷市長。

○市長（染谷絹代） まちづくり支援交付金の内容につきましては、私自身もよくその内容は熟知し、かつまた、1回限りで、しかも同じ団体が2度は難しいというようなことで、使いにくいというお声は十分に承知をいたしております。しかし、公益性というか、公平性の問題の中から、多くの市民の皆さん使っていただけるようにという意味もあって、多分、初めての者にという内容になっているんだと思うんです。ですから、継続して活動する方々にどう支援していくかという課題を、まず一ついただいたこと、そしてまた、このまちづくり支援交付金について、今は担当課がそれを交付できるかどうか、要項に照らし合わせて審査しておりますけれども、それをもし有識者、あるいは民間の方々を含めて、どういった者に交付するんだという、その審査というものはこれからやっていけるかと思っておりますので、改善を踏まえながら、少しずつ努力をしまいたいと思います。

○7番（森下文子さん） 本日は本当にありがとうございました。私どもの現状を知っていただけたという意味で、それと、皆さんが今後連携して島田市を宣伝していけるんじゃないかなと、議員の皆さんの御発言を聞いたことが、とてもありがたいと思っております。こんな機会を与えてくださりまして、ありがとうございました。

以上で発言を終わらせていただきます。